

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホーム金木犀 1F

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900330		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム金木犀 1F		
所在地	〒021-0012 岩手県一関市宮前町14-9		
自己評価作成日	令和4年11月23日	評価結果市町村受理日	令和5年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>春・秋ドライブや通院以外での外出支援が今年も出来ていませんが、壁飾りなどの制作活動に力を入れ、季節を感じて頂けるよう創意工夫し、余暇活動、レク活動では個々に合わせながら皆様で楽しんで日々の生活を過ごしていただけるよう取り組んでいます。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目を迎える2階建ての2ユニットの事業所である。一関駅や一関市役所からもとても遠くなく、周囲には民家やマンション、各種事業所が隣接している。市内には、運営法人(宮城県栗原市)を同じくするグループホームやデイサービス、訪問介護等の事業所がある。事業所では、理念の「思いや願いを大切に」の実践に向けて、幅広い年齢層(10代から60歳代)の知恵と経験を活かし、風通しの良いチームワークのもとで、協力してケアサービスに取り組んでいる。利用者は、コロナ禍においても、職員とともに知恵を出し合い出来ることを工夫しながら、笑顔を絶やさず心豊かにゆったりと暮らしている。とりわけ利用者一人一人の好きなこと、やりたいことを楽しみながら取り組める縫物や編み物、梅漬けや貼り絵、折り紙等に力を入れている。開設2年目でコロナウイルス感染が拡大し、地域交流の機会が少なく、地域の一員として暮らしていけるよう、グループホームの地域密着を目指し、目線と方向性を合わせながら前向きにケアに取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所や廊下に掲示している。カンファレンスの際には、理念を年頭において、ご本人の「思い」「願い」とは何か？を職員皆で考え、なるべくケア内容につなげるようにしている。	職員は、普段から開設当初に作成した理念に目を通しケアに取り組んでいる。利用者のケアプランにも、思いや願い、利用者が好きなことややりたいことなどを目標に組み込み、振り返りを行ないながら、職員は理念の共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、毎月広報誌を届けていただいている。コロナ禍の為、今年度も交流はないものの、ご近所の方とはお会いした際は挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域の方に向けて特に何も出来ていない状況である。今後何か出来ればと思っているが、実践には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、開催は行っておらず、ホームの状況報告を書面にてお知らせや公表を行っている。	昨年から書面開催としてるが、細やかな運営情報や利用者の暮らしの状況をお知らせしながら、委員の意見や提言、要望などを聞き取る工夫をしている。委員の評価等なども寄せていただくように取り組んでいる。	今後の地域交流やサービス向上につなげるため、推進会議のメンバーに、警察や消防、子ども関係者など、地域の多様なメンバーに入っていただくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、電話にて問合せや相談をさせていただいている。直接伺う事もある。	運営推進会議への参加を通じ、行政情報の提供や助言指導など密な連携を図っている。生活保護担当職員や介護相談員の来訪も受けながら、ケアの充実に繋げている。書類提出は直接持参し、連絡は電話やメールでも行える関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を視聴し、理解を深めている。また、定期的に職員に聞き取りなどを行い、現状把握に努めている。	3ヵ月毎に、全職員全員で構成する「身体拘束廃止委員会」を職員会議の後に開催しており、管理者が、アンケートや聞き取り等により状況を確認しながら取り組んでいる。研修は視聴教材を活用し、職員各自空いた時間を活用し受講している。玄関施錠は、午後7時から午前6時30分までとしている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を視聴し、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を視聴し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族への説明後、不明点などを確認し、内容を理解した上での契約手続きを行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や要望がある時は、担当職員と相談している。利用者様からは普段の何気ない会話から要望が聞かれる事もある為、積極的に会話をするように努めている。	利用者からはお茶の時間等を活用し、家族とは、通院時の面談を通したり、毎月の暮らしぶりをケース記録からコピーし、広報や請求書に同封している。本人の様子を伝えながら、意見や要望を伺っているが、運営に関する希望等は特に出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際や、また、必要に応じて個別にて話を伺う機会を持つようにしている。	職員会議やケアカンファレンスなどを利用して、職員は意見を出し合っている。利用者の便宜を図るため、「シフト時間をずらす提案」があり具体化されている。職員は10代から60代と年齢に開きはあるが、率直な意見交換が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や、自信ややりがいを持てるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な資格取得を促すとともに、研修を視聴して学ぶ機会の確保に努めている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上の為、外部研修へ受講を促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査後、アセスメントを行い、希望を取り入れ、ご利用者が安心して生活出来るように、同じ目線に立ち、寄り添う介護に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望や要望を視聴しながら、ご利用者様がその人らしく生活できるよう、ケアサービスに出来るだけ反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査・プラン立案では、ご利用者様がもっとも支援してほしい事をサービスとして導入している。支援方法については、生活過程の中でその方の変化や状況に合わせて対応方法を変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや広告チラシを使用した箱作り、テーブル拭きなど、その方が出来る事を一緒に行なっている。また、お掃除や食器拭きを手伝ってくれる方もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月分のホームでの様子を記録したものを、毎月ご家族様に送付している。また、必要に応じて、面会時や電話連絡にて状態報告を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、現在も玄関ドアにて窓越し面会を行なっている。その際、聞き取れないなど、会話が難しい場合は、電話を活用する事もある。	年齢とコロナ禍も重なって、馴染みが薄れたり少なくなったりする中、1階と2階の利用者同士、隔月に来訪する訪問理容師やかかりつけ医などとの新たな関係が出来ている。通院時の帰路に足を延ばし、自宅周辺をドライブするなど、思い出の場所を大事にしている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブルでは、気の合う人を隣にしたり、必要に応じて職員が間に入り、交流が深まるように努めている。集団の関りが難しい方は、職員が個別に関りを多く持ち、状況に応じて孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも、ご家族様にお会いした際には、近況や状態を伺う等行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話をしながら、希望等を確認している。困難な場合には、日々の様子や言動などから、ご本人様の思いを読み取るように努めている。	利用者の半数は気持ちや願いを言葉にできるので、何気ない会話の中から把握できている。好きなことや得意なことを引き出すよう働きかけ、プランターで野菜を育てたり、梅干しをつくったり、洗濯物たたみや茶碗洗い等に意欲をもって取り組んでいる。とりわけ日報駅伝の応援は、利用者の希望により実現できたとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査の際に、ご本人様やご家族様から、生活歴や暮らし方、趣味などを伺い、把握に努めてケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表や記録を活用し、把握に努めている。また、毎月居室担当と確認し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の希望等を取り入れ、介護計画を作成している。また、日々の様子や変化について意見を出し合い、介護計画に反映させている。	居室担当が中心となって毎月のモニタリングを行い、職員全員のケアカンファレンスを通して、ケアマネが原案を作成し、利用者家族の同意を得ている。見直しは、定例6ヵ月を基本にしている。特に、理念の思いや願いを大切にしたいケアプランについて、心配りしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録等に毎日記録しており、介護計画の見直しに活かしている。また、職員への聞き取りなどにて、職員間の情報共有を図っている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の希望にて、訪問美容室や訪問診療を利用する方もいる。また、かかりつけ医への通院の支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の訪問美容室に来ていただいております。希望者が利用している。また、かかりつけ医への受診や、調剤薬局を利用・相談する事により、不安なく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、基本的に職員が同行しており、受診結果に変わりがある際は、ご家族様にも報告している。	利用開始当初からのかかりつけ医を受診している。通院の同行は、居室担当の職員が行っている。変化等がある場合は、家族等へその旨をお知らせしている。同一法人の老人保健施設の看護師が、週1回半日ほど来所し、受診結果や体調管理への助言を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に同法人内の看護師が来所しており、健康管理を行なっている。状態について相談し、必要に応じてアドバイスをいただく事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍にて病室への訪問は難しい為、ご家族様や医療機関と情報交換を行い、協力を得ながら、速やかな入退院の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や看取りについて、指針に沿ってご家族に説明している。看取りについては、現在希望している方はいないものの、希望者がいる場合は、医師や看護師の助言を得ながら、場合によっては同法人の施設の協力を得るなどして支援していきたいと考えている。	重度化と看取りに関する指針は策定されており、利用開始時に、利用者家族等に説明し了承を得ている。実際に重度化等の対応が必要になった際には、指針はもとより、家族等の思いや願いに耳を傾け、かかりつけ医等の指導や指示を得ながら対応している。看取り対応した職員を中心に今後も研修を重ねたいとしている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木犀 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、職員に周知、事務所にも掲示している。また、同法人内看護師と連携し、24時間相談できる体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。また、地震や災害に備えて食料や飲料水の確保をしている。	5月に2階からの出火を想定し、外の非常階段を使用した避難訓練を実施し、消火訓練には数名の利用者も参加した。10月には夜間想定訓練を実施し、車椅子や歩行者利用者、目の見えない利用者の避難誘導等に伴う課題を整理し、具体的な対応を検討している。避難訓練前には近隣にチラシを配布している。	避難誘導した際、利用者の見守りをさせていただく方があればより安全に避難することができます。予め地域の何人かの方に協力者として依頼しておかれることが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者個々の性格に応じて、声の大きさや言葉遣いに配慮し、目線を合わせて意見や話を傾聴しながら接している。また、ご利用者さまにあったお声がけを行い、不安等を起こさないように心掛けている。	利用者一人一人の気持ちに寄り添い耳を傾け、したいこと好きなことなどが出来るよう支援している。決して無理強いや急かしたりはせずに、利用者の気持ちを尊重して介護している。声がけもさん付けで行い、居室への出入りも了承を得て行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望や思いを傾聴し、楽しく生活できるように心がけている。お声がけや対応に工夫しながら取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活習慣等に配慮し、その方の生活ペースを大切にしている。出来るだけ、ご利用者様が出来る事、したい事を行なっていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪・洗顔・髭剃り等、必要に応じてお声がけや介助を行っている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きのお手伝いをいただく等、食事の準備を皆で行なっている。メニューは決まっているが、苦手な食材がある場合、他食材に代替するなどの対応を取っている。	法人本部内の老人保健施設の厨房で、主菜・副菜が調理され、毎日届けられる。ホームではご飯と味噌汁を用意している。現在粥食は3名おり、パン食やおやつなど本人の希望に合わせている。両ユニットとも、職員と一緒に食事をとらず、見守りや1、2名の食事介助を行っている。利用者は台拭きや食器の後始末を手伝っている。利用者が手掛けた、梅干しや梅シロップ、プランターのミニトマトやしそを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、ご利用者様の状態を把握している。食事などは、その方に合う形で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きのお声がけをして、必要に応じて介助を行っている。義歯使用者には、毎日洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、排泄パターンを把握してトイレ誘導又はオムツ交換を行なっている。	布パンツ使用2名、夜間のみオムツ使用1名、ポータブルトイレ使用など、利用者の状況に合わせて常に優しい声がけを心がけながらトイレ誘導している。職員の自立維持への取り組みもあって、利用者は失敗もあるが、落ち込みはなく楽しく暮らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記録して排便のチェックを行なっている。便の状態・量もチェックし、必要に応じて整腸剤や下剤を医師あるいは看護師に相談して服薬している。毎朝牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を支援している。入浴前にバイタルチェックを行い、その日の体調・気分・状態に沿った対応を行なっている。大体の入浴日は決まっているが、その日の入浴が難しい場合は、翌日と交換するなどして対応している。	午前中の中の入浴・シャワー浴で清潔を保持している。季節に応じ、ゆず湯やしょうぶ湯を取り入れたりしながら、利用者は一人でのんびり入ったり、職員と語り合ったり、歌を歌ったりしながら、それぞれに自分の楽しい時間を過ごしている。入浴を嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後と昼食後に休憩時間を設けて、ベッドで静養していただいている。リビングで過ごす方もいる。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更がある場合は、連絡ノートや口頭にて職員に説明し、定期訪問する看護師にも報告している。処方箋等で副作用についても把握に努めている。服用時には、他職員と氏名・日付等を確認しあい、確実な服薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの作品の作成、利用者様の得意な事に取り組んでいただく事もある。テレビを見ながらの体操は日課にもなっている。季節に応じて野菜をプランターで育てたり、梅干し作りなども行なっている。生活歴に応じて、書道や、編み物を行う事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今現在は、コロナ禍により、日常的な外出支援は出来ていない。お花見や紅葉ドライブなど季節を感じる際は、ホーム外の方となるべく触れ合わない形で外出支援している。ご利用者からの要望にて、ご近所に駅伝の観戦に出かける事はあった。	コロナ禍で外出機会が減少する中、春の花見や秋の紅葉狩りに巖美溪や達谷窟毘沙門堂方面などヘッドライブに出かけている。また、定期通院の帰路に自宅周辺を廻って来ることもある。今年は利用者の要望に応じて、感染対策をしながら日報駅伝の応援に出かけ喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持しているご利用者様はいるが、実際に使用する機会はなく、必要な支払い等はホームが立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にご家族様に電話をかけられるように支援している。会話後は安心されている様子がみられ、ご家族様との会話を楽しまれている。ご自分で書いた塗り絵ハガキをご家族様に送る方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは南向きで日当たりも良く、ご利用者様が外を眺めたりする事がある。季節感を感じていただけるように、壁にはご利用者様と一緒に作成した作品や書道作品を飾っている。	大きな南向きの窓もあって明るいリビングになっている。自由に形を変えることのできる六角形のテーブルを上手に活用している。壁には職員と利用者が一緒に作成したクリスマスツリーやサンタクロースの手作り作品等が飾られている。室内にはシクラメンやサボテン等の生花が常に置かれており、心が安らぐ空間となっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者様で過ごせるように席を工夫している。場合によっては、席をかえたり、会話やテレビを見て過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、家具・ソファなど、ご利用者様ごとに居室に持ち込んでいただいている。ラジオを聴いて過ごしている利用者もいる。	居室には、ベッドやクローゼット、洗面台やエアコン等が備え付けられ、仏壇や神棚を置いたり、使い慣れたテレビやソファ、カレンダーや時計、椅子等を持ち込んでいる。ぬいぐるみや小物等で、自分の部屋らしくしており、掃除は、利用者と職員が一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2か所あるトイレの場所が分かるように大きな表示をしている。場所が分からなかったり、戸惑いがみられる利用者に対しては、必要に応じてお声がけするように心掛けている。		